
日本計量生物学会

ニュース・レター No.71

2000年4月

目次

巻頭言
会長の一言
お知らせ
2000年日本計量生物学会総会のご案内
International Conference on Statistical Challenges in Environmental Health Problems
理事会議事録
海外の学会紹介
関連学会のご案内
編集後記

柳川 堯 (九州大学)

「金は出すが、人はださない」日本政府の
対外政策が批判される時の常とう文句です。
「しっかりやってよ、国民の一人として恥ず
かしい」という思いをもっておられる方が多
いことでしょう。私もそうでした。ところが、
その私に国際バイオメトリックス学会 (IBS)
セクレタリーのElizabeth Barathがそう言っ
たのです。「エッ！」別世界のことと思って
いたことが突然現実に語られ絶句しました。
「日本地区はメンバー数から言えば、Big
Regionなのだから、もっとIBSに貢献してほ
しい」Elizabethは、IBS首脳陣の期待を代弁
したのです。吉村会長も同じ様なことを耳に
されたそうです。日本地区は、これまで「日
本人は英語が下手」といってIBSにお金だけ
を出してきました。そういう対応は「もう国
際社会では通用しない」という現実を、吉村
会長とともに「しみじみ」味わいました。

ヘルシンキで開催された国際統計協会
(ISI) 会議の際、2001年にソウル開催される

国際会議「環境と健康—統計科学からの挑戦—」

ISI会議のサテライト会議としてBiometrics
関係の会議を日本で開催しないか、という声
が寄せられ、理事会では、日本計量生物学会
主催で2001年8月30日－9月1日「環境ホル
モンなど環境汚染物質のヒト健康影響評価に
関わる統計科学の研究交流」を目的とする国
際会議を福岡市で開催することに決定しまし
た。日本計量生物学会による国際的貢献の第
一步と考えています。もとより真の貢献は単
に会議を開催することではなく、環境問題に
対する統計科学の重要性を会議を通じて国
内、国外に明らかにすることにあります。

国際会議での発表は「先端的学術研究だけ」
と考えている方が多いようですが、これは
「間違い」です。「私どもの経験は、いかにさ
さやであったとしても、他の国、特にアジア
やアフリカ諸国の環境問題に貢献する」と信
じて発言し、行動するのが国際社会の常識で
す。ぜひ「講演」を出していただくことを期
待します。

会長の一言

吉村 功

「インターネット」というキーワードで象徴される電子化が、どんどん進んでいます。会員の皆さんはこれについてどうお考えでしょうか。

電子化には、それはどんどんやるだけだ、と言って差し支えない側面があります。たとえばホームページです。

気の急く方は毎日お読み下さいと知らせておいて、ニュースや資料などを載せることは、会員サービスの向上と、事務の能率化になると思います。更新にちょっと手間がかかりますが、多少のさばりを大目に見てもらえるなら、事務局がホームページを管理することが可能です。学会発表の申し込みを、メールでも可能にするというのも、ちょっと慣れれば採用可能でしょう。ただし、会員の能力による差別化・切り捨てが生じないように注意することは必要ですが。

問題は電子出版、つまり会誌・論文誌の論文を電子媒体で提供しよう、という方向です。これは、いわば試験管ベビーを家族関係の中でどう扱うかというような、今までなかった問題を発生させます。たとえば、論文の発表競争です。まとまるまで待つのでなく随時発表することにすれば、「私が先に発表した」というオリジナリティ争いが、秒単位で発生する可能性も、先端技術の世界では生じ得ます。特許争いに直結するからです。

これについては、今までの論文誌をそのままの形態で維持した上で、電子媒体上でもアクセスできることにし、有料で論文のコピーを取得させるというのが現時点で、各学会がおずおずと考えている対応です。でもこれでは電子媒体の利点がほとんど生かされませんから、このレベルで将来の事態が推移するとは思えません。電子出版の流れが進むとしたら、それは経費・時間・労力を削減することを利点とするものでしょう。学会だけでなく出版文化自体に変革を強要する事態が進行すると考えざるを得ません。

もし学会がこの流れに乗ったとしましょう。そうすると、学会発表・論文発表を行うことで研究業績を増やそうとする人以外は、学会に加入していることの利点が無くなり、会員数の減少が起こ

りそうです。そもそも会誌を受け取らない人が出てくるかもしれません。複数の学会に入っている人にとって、学会誌はきわめて場所を取るやっかいな存在だからです。そうすると学会誌を紙上印刷にするのを止めようという主張も出て来るでしょう。資源の無駄だ、というわけです。

もし印刷を止めると、ハッカーによって論文が改竄されるという事件も起こり得ます。盗作も極めて楽になります。カットアンドペーストの手間がわずかですむからです。会員にならないとパスワードがもらえないと言っても、ソフトの違法コピーと同じで、1人が会員になればそれでよいのです。

そんなこんなを考えながら、今年の理事会は、電子出版に関わることを試みることにしました。具体的にどうするか、どうなるかはこれからのことですが、会員の皆さんもこれについて、考えていることを広報理事（具体的には biometrics@sinfonica.or.jp）に届けて下さい。そういう意見を考慮しながら、すこしずつ電子出版の動きを進めていこうと思います。

お知らせ

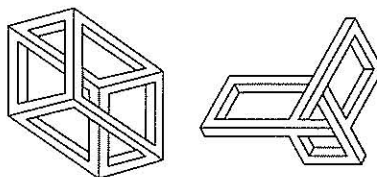
2000年日本計量生物学会総会のご案内

合同年次大会初日の5月11日12:10から12:40に、2000年日本計量生物学会総会を開催いたします。議題としては、

1. 1999年度活動報告
2. 1999年度決算報告・会計監査報告
3. 2000年度予算案
4. 2000年度活動計画
5. その他

を予定しています。会員の皆様のご参加をお願いいたします。

なお、都合により参加いただけない場合には、委任状の提出をお願いいたします。委任状は連休明けの5月8日（月）までに投函してください。



International Conference on Statistical
Challenges in Environmental Health Problems
(Tentative Agenda)

Thursday 30 August – Saturday 1 September
2001

Soft Research Park, Fukuoka City, Japan

Purpose of the Conference

The purpose of the conference is to stimulate research and to foster the interaction of researchers in the interface between environmental health problems and statistics. This conference will provide a forum through which scientists challenging statistical research in environmental health problems may be better informed of the latest developments and newest techniques in statistical science. Selected refereed papers from the conference will be published.

President of the Conference

YOSHIMURA, Isao (Science University of Tokyo)

The Regional President of the International Biometric Society

International Program Committee

Chair Person:

PIEGORSCH, W. Walter (Univ of South Carolina, USA)

EDLER, L. (German Cancer Institute, Germany)

KIM, B-S. (Yonsei University, Korea)

OHASHI, Y. (University of Tokyo)

TANGO, T. (National Institute of Public Health)

Organizing Committee

Chair Person:

YANAGAWA, T. (Kyushu University)

EL-SHAARAWI, Abdel, (National Water Research Institute, Canada)

HAKULINEN, T. (Finnish Cancer Registry)

HOEL, D.G. (Medical University of South Carolina)

PORTIER, C. (National Institute of Environmental Health Sciences)

ANRAKU K. (Seinan gakuin University)

MIWA T. (National Institute of Agro-Environmental Science)

MORIKAWA T. (Takeda Yakuhin Co.)

OHTAKI M. (Hiroshima University)

SATO T. (Kyoto University)

YOSHIMURA T. (University of Occupational and Environmental Science)

Session Topics

1. Evaluating Risk of Endocrine Disrupting Chemicals on Ecosystems and Environmental Populations
2. Quantifying environmental health risk
3. Modeling and Analysis of Environmental Health Data
4. Modern statistical challenges in environmental epidemiology
5. Hierarchical and Bayesian modeling of environmental health data
6. Pharmacokinetic and toxicokinetic modeling for environmental health problems

理事会議事録

1999年日本計量生物学会第6回理事会（メール理事会）議事要旨

日時：1999年12月21日送信

参加者：上坂，大瀧，大橋，越智，折笠，岸野，後藤，佐々木，佐藤（喬），佐藤（俊），丹後，椿，二宮，林，三中，三輪，柳川，山岡，吉村

1. 前回議事録，議事要旨の確認承認された。

2. 学術会議会員候補，推薦人の選定

第17期学術会議の任期満了にともない，計量生物学会から推薦する第4部の会員候補，推薦人，推薦人予備者について，理事による投票を行った。会員候補は吉村功氏が6票，推薦人は柳川堯氏が3票で最多であり，両氏を日本計量生物学会から日本学術会議に推薦した。

3. 2000年度合同年次大会について

12月7日に開催された応用統計学会との連絡委

員会について報告した。昨年の大会収支が赤字であったので、参加費を正会員4000円、非会員6000円と1000円ずつ値上げした。応用統計学会特別講演は、廣津千尋氏「分散分析を越えて」、三浦良造氏「金融工学と応用統計」。3月3日の一般講演申し込み締め切りの後にプログラム編成作業委員会を開催し、大会プログラムを固定する。

4. 学会ホームページについて

山岡広報担当理事からの案に賛成という意見が多数であった。これを受けてホームページの作成にとりかかる。

ホームページと関連してオンラインジャーナル編集出版システムについての議論があった。現在雑誌を印刷している印刷屋から、費用はかかるもののPDFファイルで印刷物と同じものを納入してもらうことは可能とのこと。

5. IBC2004について

1999年12月9日にSusan Wilson会長からのIBC2004立候補の案内メールを受信。前回理事会で、日本でのIBC開催に向けて積極的に取り組むことに決定したが、立候補にはアプリケーションフォームに細かい情報まで記入して提出する必要があるため、2004年への立候補は見送るという意見が多かった。今後は2006年立候補を目指して理事会で検討することになるが、IBC開催は会員の総意でもあるのかという意見と、総会やニュース・レターを通して会員からも意見を募る、という提案があった。

次回理事会予定

2000年3月3日の一般講演申し込み締め切り後に開催されるプログラム編成作業委員会、連絡委員会の後に開催予定。

記録 佐藤俊哉 庶務担当理事

海外の学会紹介

疾病集積性等に関するシンポジウムに出席して

国立公衆衛生院 丹後俊郎

昨年12月のクリスマスが始まる1週前にロンドンにある英国統計学会の講堂（conference room）で開催されたシンポジウム「疾病集積性とエコロジカル研究の解析と解釈」（International

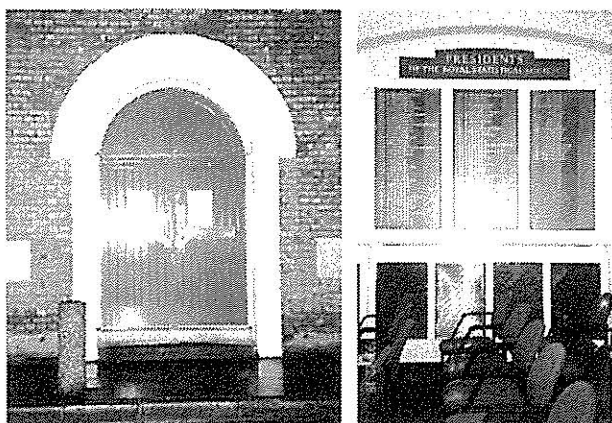
Conference on the analysis and interpretation of Disease clusters and ecological studies）で発表の機会を与えられたので、ここではその会議の雰囲気を紹介します。

英国統計学会のオフィスは、Barbican tube駅から歩いて10分程度のところにあるErrol Streetにある大きな建物の一角にあり、隣にはYMCAの宿泊施設があります。外から見ると、知らないとならず、学会事務所と講堂等があるなどとは分からないでしょう。その入り口は写真1にあるように、いかがわしい地下室への入り口を思わせる小さなものでした。しかし、中に入ってみると、それなりに立派な作りで、特に会議室は200人程度しか入れないようなスペースですが、OHP, slide projector関連の装置が「見る人のことをよく考えて」整備されていたのには感心しました。また、会場内の側壁には写真2にあるように歴代の英国統計学会の会長の名前が刻まれたパネルがあり、歴史の厚みを感じさせています。英国統計学会の大会は各地の大学で開催されますが、その時々トピックに応じたシンポジウムがこの学会講堂で行われるようです。

さて、会議の内容ですが、環境汚染の健康影響評価に登場する疾病集積性に関する方法論とecological fallacyと言われるほど推定値のバイアスが問題となるエコロジカル研究の方法論に関する会議で、以下に示すテーマで討論が進行しました。

1. Cluster investigation: If, when and why ?
2. Clustering and cluster detection: How ?
3. Applications of disease clustering
4. Ecological studies: If, when and why ?
5. Ecological studies: How ?
6. Ecological studies: Applications ?

参加者は欧米がほとんどですが、テーマ自体それほど広いわけでもないのに、英国を代表する統計学者の多くが出席して、議論に参加していることには驚き、環境問題への関心の高さを改めて感じました。また、各セッションにはinvited discussantが二人ほどついて形式的でないコメントをしていることには感心しました。さすが、議論することに慣れている英国人ならではのことでしょうか？ ただ、学会が講堂を含む事務所を持っているとはうらやましいですね。



関連学会のご案内

★IBC2000

2000年7月2日から7日、サンフランシスコのUCバークレーで開催されます。(Biometric Bulletin Vol.16, N0.4に登録用紙や学会案内が掲載されています。)

IBC2000のホームページ→

<http://www.biostat.ucsf.edu/biostat/IBC2000/>

★ISI 53rd Session—Seoul 2001

International Statistical Instituteの第53回大会がソウルで2001年8月22-29日に開催されます。詳細はホームページをご覧ください。

ISI2001のホームページ→

<http://www.nso.go.kr/isi2001/index.html>

★JSM 2000—Joint Statistical Meetings Joint Statistical Meetings

American Statistical AssociationのJoint Statistical Meetingsが2000年8月13-17日にインディアナ州インディアナポリスで開催されます。詳細はホームページをご覧ください。

JSM2000のホームページ→

<http://www.amstat.org/meetings/jsm/2000/index.html>

その他、関連学会、会議、セミナーなどございましたら、ニュースレター編集担当委員までお知らせ下さい。

編集後記

ニュースレターの主編集担当が変わり、今回から「板橋・石神井川の辺から」となりました。石神井川の川縁を彩る桜の花も花吹雪となり、いつの間にか葉桜となり、桜の花のあるうちに会報を...という当初の見込みも見事に散り去りました。お配りするのが、合同大会ぎりぎりとなってしまう、恐縮です。

現在、計量生物学会のホームページの準備をしており、あと1、2ヶ月以内には立ち上げの許可が出ると思います。いま、情報伝達のスピードはめざましく、学会でも、それに遅れを取るまいと努力しております。なお、情報伝達の一環として海外の学会がどのようなものがあるか、その雰囲気などできるだけお伝えすることを目的に、今回から「海外の学会紹介」を設けました。計量生物に関連した学会に参加された会員の方から記事をお寄せいただき紹介します。会員の皆様の今後の学究活動に役立てていただければと考えております。どうぞ、今後海外の学会に参加された方、エッセイでも、紹介でも結構ですので、できれば写真付きでお送り下さい。また、学会や会報についてのご意見などございましたら会報に「読者からの声」として掲載したいと思います。どしどしお寄せ下さい。よろしくお願いいたします。(板橋・石神井川の辺から)

日本計量生物学会事務局
〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9 大和ビル2F
(財)統計情報研究開発センター内
日本計量生物学会事務局
FAX 03-5467-0482
e-mail: biometrics@sinfonica.or.jp

広報委員会 山岡和枝, 林 邦彦
山岡連絡先:
〒173-8605 板橋区加賀2-11-1
帝京大学医学部衛生学公衆衛生学教室
TEL: 03-3964-1211 (内線2178)
FAX: 03-3964-1058
e-mail: kazue@med.teikyo-u.ac.jp